

時 間：90分×3回+自主学习
形 式：講演+インタビュー調査+4～5人のグループワーク
講 師：大槻奈巳（聖心女子大学）
キャリアモデル：3名
実施校：聖心女子大学
レベル：中級

(1) 目的

働くことや職業的キャリア形成のイメージがつかみにくい大学生を対象に、将来の仕事や働き方について、①キャリアモデルからの話、②社会人へのインタビュー、③働き方や生き方の比較分析、を通して考える。働くことを切り口に自分がどんな人生を歩んでいくか、自分の行きたい方向に自分を主体的にもっていく力～切り拓く力を考える機会とする。

(2) プログラム

回数・テーマ	内容
1：働くことを考える ～継続していく重要性	勤続11年目になる金融機関勤務の室長代理の女性（卒業生）をキャリアモデルとしてむかえ、自らの職業的キャリア形成や仕事と生活のバランスについて考える。特に仕事を継続していく重要性について考える機会とする。適宜、女性の働き方の現状についての解説をいれ、自分のキャリア形成について具体的に考えられるようにする。
2：キャリアの階段を考える ～管理職の仕事	同じ会社に勤務する管理職女性と勤続4年目の女性（卒業生）をキャリアモデルとしてむかえ（メーカー勤務）、管理職女性の話からは、企業の中でキャリアを形成すること、管理職になるということ、仕事と子育ての両立について、勤続4年目の女性の話からは、大学で学んだことと現在の仕事、入社して大変だったことなどを考える機会をする。ジェンダーギャップが大きいことや管理職志向が低いことの解説を適宜入れ、キャリアモデルとともに考える。
3：働いている人へのインタビュー (学生が各自で実施)	30歳以上の働いている社会人に対して、インタビューを実施し、主に職業的キャリア形成についてきき、(具体的には、日本的雇用システムの実際、仕事内容、仕事のやりがい、困難を乗り越え方、WLB、今後のキャリアのあり方など)、社会の変化や企業での働き方の変化のなかで、どのようにキャリア形成してきたのかその特徴を分析。
4：働くことの比較分析	グループに分かれ、他の受講生のインタビュー対象者と自分のインタビュー対象者のキャリア形成について比較分析する。さらに、キャリアモデル3名のキャリアのあり方とも比較分析を行う。働くことを切り口にして、自分がどんな人生を歩むかを考える機会とする。

(3) プログラムのポイント（想定される効果）

- ・キャリアモデルの話から、働くことの具体的なイメージを得る。
- ・同じ企業で働き続ける良い点や働き続けられる工夫について考える機会とする。
- ・管理職女性の話から組織のなかでキャリアを形成する大切さ、管理職になってよかったことについて

て学ぶ。

- ・社会人へのインタビューの実施、他のインタビュー対象者との比較分析を通し、様々な働き方や生き方があること、それぞれの人々の工夫や乗り越える力について学ぶ。
- ・働くことを切り口に、自分の今後の生き方について考える機会とする。
- ・講義を通じて、キャリアモデルの話や社会人へのインタビューの実施を通し、仕事や働くことへの理解を深め、自らつくっている壁について考え、今後の主体的行動を促進する。

(4) 実施上の留意点

- ・働き続けるイメージを持ちにくい、管理職志向が弱い、自分の母親のライフコースを標準と捉えるというような傾向がある学生が、キャリアモデルの話から自分の視野の狭さや思い込みに気づききっかけにする。
- ・授業をとおして人生を切り拓く力を考えてほしい。人生を切り拓く力とは、自分の行きたい方向に自分をもっていける力である。前提を問い、自分の行きたい方向に行くにはなにが障害なのかを見極め、障害をどう乗り越えるかを考え、必要な支援、得られる資源を把握し、支援や資源を活用しつつ、自分の人生を主体的に自分の希望の方向にもっていく力である。この点が学生にわかるようにキャリアモデルに話をしてもらい、また質問をし、学生が、人生をどう生きるかを深く考え、自分の行きたい方向に自分を主体的にもっていく力を考える機会になるようにする。

(5) 各回の内容

1：働くことを考える～継続していく重要性（授業）

<ながれ>

①キャリアモデルに15分～20分程度お話しいただく。

②キャリアモデルに講師が質問しながら話を深める。適宜、講師が日本における女性の働く現状について、パワーポイントのスライドを示しながら解説する。

<キャリアモデルにお話しいただく内容>

- ・仕事の内容、なぜその仕事に就いたか
- ・その仕事の面白いところ、大変なところ
- ・入社以来、印象に残っている、大変なことはあるか
- ・もしあった場合、その大変だったことをどう乗り越えたか
- ・仕事を辞めたいと思ったことはあるか、もしあるとしたらどう乗り越えたか
- ・大学ではどんな学生だったか、どんなことをしていたか、力を入れて行っていたこと
- ・大学で学んだことがいまどのようにいきているか（仕事および人生において）
- ・価値観で大切にしているのはどんなことか

<講師からの質問>

- ・女子大学で学んでよかったことはなにか
- ・働き続けている理由
- ・室長代理になってよかったこと、大変なことについて
- ・もっと上の管理職をめざしたいか

2：キャリアの階段を考える～管理職の仕事（授業）

<ながれ>

①管理職女性に15分～20分程度お話しいただく。

②講師と入社4年目の女性が質問し話を深める。

③入社4年目の女性に15分程度お話しいただく。

④講師が質問し話を深める。

⑤キャリアモデル2名、講師で自由な形で話を深める。適宜、女性の働く現状について、パワーポイントのスライドを示しながら講師が解説する。

<キャリアモデルにお話しいただく内容> ※1と同じのため略

<講師からの質問> ※1に下記を追加

- ・仕事による転居について（知らない場所に住むことに抵抗がある学生が多いので）
- ・子育てと仕事の両立について
- ・管理職になってよかったこと、大変だったこと
- ・後輩に対してこの力を伸ばしたほうが良いという点はなにか

3：働いている人へのインタビューの実施（自主学习）

<ながれ>

- ①学生が各自で社会人にインタビューする。相手は働いている社会人なら男女どちらでも可。
- ②次回授業時にインタビューメモを持参する。

<質問内容>

- ・仕事の内容
- ・雇用形態について（日本的雇用システムとの関連について）
- ・なぜその仕事に就いたのか
- ・その仕事につくまでの経歴
- ・その仕事の好きなところ、やりがい
- ・その仕事の大変なところ
- ・その仕事の特徴
- ・仕事における転機、困難の乗り越え方
- ・その仕事を行う人へのアドバイス
- ・今後のキャリアのあり方について

4：仕事やキャリア形成の比較分析（授業）

<ながれ>

- ①3～4名のグループにわかれ、インタビューしてきた内容を共有する。
- ②インタビュー対象者の仕事内容やキャリア形成を以下の切り口で比較する。
 - ・雇用形態（正規・非正規）、自営・雇用者、転職の有無
 - ・家族の状況、性別
 - ・仕事内容（営業職、事務職、専門職、管理職の特徴、人を対象にする仕事かどうかなど）
 - ・障害があった場合どのように乗り越えたのか
 - ・（組織のなかや自分自身で）どのようにキャリアを形成したのか
- ③インタビューの共有、比較をもとに、キャリアモデルとの比較を行う。
- ④上記をレポートにまとめて提出する（タイトル「仕事について考える」A4×4枚以上）

(6) 学生の感想

- ・卒業生の話だったので身近に感じる事ができた。
- ・管理職になっても大変なだけでないことがわかった。
- ・父親に仕事の話始めてちゃんと聞く良い機会となった。
- ・インタビューの内容を比較するのは難しかった。
- ・グループでの話し合いは楽しかった。いろいろな人のことがわかった。 など

以上